



2025/09/11

食育推進評価専門委員会
第5次食育推進基本計画ヒアリング

(株)加茂牧場 加茂太郎



私は、牛の乳を搾る「酪農家」です。

みなさんは、
農業・漁業って身近ですか？

おいしいお米の作り方

立派な野菜の作り方

甘い果物の作り方

乳の搾り方

お肉や卵がどうやってお店までくるのか

なぜいつでも食べたいお魚が買えるのか 知っていますか？

「食育」のスタートラインは、

食を生み出す生産現場に、「興味」と「親近感」を持つ

ことからだと考えます。



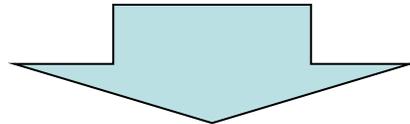




【目標10】農林漁業体験を経験した国民を増やす

目標値の達成状況の背景・要因 より

- ・地方圏居住者に比べ、大都市圏居住者の体験参加割合が低い
→生活範囲に第一次産業が少ない
- ・参加しない理由は「体験に参加する方法が分からない」
→体験イベントなどの開催頻度などの地域格差



農漁業者による、(小)学校への出前授業を積極的に行うことが近道

実施拡大におけるハードル

- ・市町村単位での受け入れ態勢
→地方行政への働きかけ
- ・学校教育活動への農漁業者の理解
→研修会の実施
- ・授業実施に向けての授業技能の向上
→マニュアル集・事例集等の制作
- ・実施に伴うコスト負担
- ・フォローアップのためのオンライン技能の習得 等

「いななかなる身体、豊かなな」を育てる食育をめざして

やちよ食育ネットワーク協議会が推進している、食育推進事業「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」は、令和3年度で10年目を迎えることができました。子どもたちの食を通して健康づくりのため、市民と行政の協働で始まった活動を、これからも推進していきたいと思えます。

やちよ食育ネットのあゆみ(抜粋)

- H15.6 「八千代市健康まちづくりプラン」の策定を機に子どもの食を通じた健康づくりのため、市民と行政の協働で進める「やちよ食育プロジェクト実行委員会」が発足(後に「やちよ食育ネット」に改称)
- H17.11 単独給食校で「地場産野菜の給食の日」を実施
- H18.3 学校給食で市内産ねぎを使用
- H19.6~ 「学校給食エコにんじんウィーク」を実施
- H19.10~ 学校給食で市内産ねぎを使用
- H22.1~ 学校給食で市内産ほうれんそうを使用
- H23.6.1 「やちよ食育ネットワーク協議会」を制定
- H24.10~ 食育推進事業「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」開始

農業生産者の方々からのメッセージ



にんじん農家の村山さん

子どもたちは毎日のように牛乳を飲んでいますが、牛乳と牛が結びついていません。生産者と消費者を繋げていけたら、もっと身近に感じてもらえたら、と思っています。学校には牛を連れて行き、乳搾りの体験をしています。この体験が子どもたちの将来の職業選択の1つになれば嬉しいです。



酪農家の加茂さん

最近、なかなか畑に来てもらえませんが、畑を見てもらいたいです。子どもたちは生のにんじんの甘さに驚いて、喜んで食べていました。農家は安全な野菜を作っていますので、安心して食べてほしいと思います。

地元の梨を知らない方がいるので、市民や子どもたちに広く知ってもらいたいと思い、この事業に参加しています。授業はやっていて楽しく、やりがいを感じています。八千代市の子どもたちは大人になって市外に出てしまっても、地元に戻る人が多いと聞いていますので、この体験が大人になってからの就労に繋がってほしいと思っています。



やちよ

学校給食での地場産物の利用状況
・米(通年)・にんじん(6月)
・梨(9月)・ねぎ(12月)
・キウイフルーツ(11~3月)



梨農家の綱嶋さん

梨を知らない方がいるので、市民や子どもたちに広く知ってもらいたいと思い、この事業に参加しています。授業はやっていて楽しく、やりがいを感じています。八千代市の子どもたちは大人になって市外に出てしまっても、地元に戻る人が多いと聞いていますので、この体験が大人になってからの就労に繋がってほしいと思っています。

新木戸小学校で行なった食育推進事業「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」をレポート！



▲ほうれん草の農業生産者 高橋さんの授業の様子

今年も八千代市でほうれん草を育てている生産者三名の方が新木戸小学校を訪問して三年生に向けて授業を行いました。授業の導入部分では、用意した三つの種で野菜当てるクイズをしました。ほうれん草・小松菜・春菊など微妙に違う野菜の種を「これがほうれん草だろっ!」と考えながら選びました。土づくり・種まき・まひき・収穫・出荷の様子の写真や種まき用の機械を見せて説明しました。八千代市は気候的に恵まれており、一年を通していろいろな野菜が収穫できることや育てた野菜の販売場所についても子どもたちに伝えました。

質問の時には「野菜をいへりて水を付けることはなんでですか?」とのへらい水をあげたらいいでですか?」と、授業で野菜を育てているので実践的な質問がありました。授業の後半では、栄養教諭からほうれん草の栄養と働き、地産地消についてわかりやすくお話がありました。今日から、給食でほうれん草がでたら、しっかりと食べることを約束しました。



▲栄養教諭による授業の様子

村上北小学校で行なわれた食育推進事業「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」をレポート！



▲梨の農業生産者 綱嶋さんの授業と試食の様子

十月十九日、梨農家の綱嶋祐介さんが村上北小学校を訪問し三年生にむけて授業を行いました。学区内に生産者さんが在住という地域もあり、その一つが村上北小学校で行われた梨の授業です。最初に学校栄養職員から、地産地消、梨の栄養成分や効能効果について、パネルを用いながら、お話がありました。それから農家の先生から四枚の写真を使った、植物の花をあるクイズ、野菜の花は見る機会がないので回答は難しかったようです。「梨の収穫時期はいつかな?」という農家さんの問いに、「子ども達が元氣よく手を挙げて答えています」。

又「11月の作業の必要性の説明では、子ども達の身近な生活に置き換えたので分かりやすく和やかな雰囲気です。授業は進みました。はさみや受粉機を見ながらの説明では子ども達から歓声があがり、七月に梨畑見学に行っている等、知識から理解度がより深まっていたようでした。最後に、保護者の方の協力もあり、梨の(新葉)という種類の試食会が行われました。



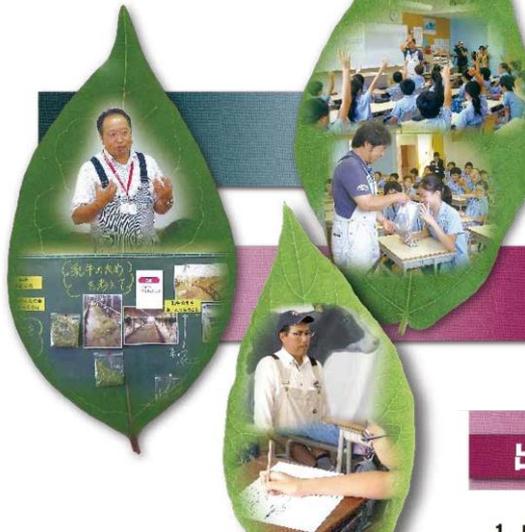
▲学校栄養職員のお話

やちよ食育ネットワーク協議会(通称:やちよ食育ネット) 小学校における農業生産者等との関わりのある食育を推進することを目的に設置された協議会。メンバーは、PTA 連絡協議会、校長会、教育委員会指導課、保健体育課、学校給食センター、農政課、母子保健課の代表者で構成されています。また、協議会には分科会を設置し、現場の実務者である小学校教諭、栄養教諭・学校栄養職員、教育委員会指導課、保健体育課、農政課、母子保健課の担当職員がメンバーとなっています。

市内七ヶ塔(七ヶ塔)で、食育推進事業に、すてっくします。です。対、市内、育て方、食育ポラ、せ「2品、下処理の

食やしごと、いのちの学び 酪農家による乳牛を用いない 出前授業マニュアル

(付録：出前授業の教育的効果検証)



出前授業を始める前に

1. 申込みから実施までの手順

- ① 学校から申込み（電話、FAX またはメールにて受付）
- ② 申込書送付（酪農家→学校）／ 申込書返送（学校→酪農家）
*申込書（例）については P5参照
- ③ 学校と事前打ち合わせ
*事前打ち合わせのチェックポイントは P4参照
- ④ 学校による事前学習の実施
当日の出前授業をスムーズに行うため、学校による事前学習を行ってまいります。事前学習の内容は、学習後に学校から連絡いたしますのでご留意いただき、内容を共有できるようにしましょう。
- ⑤ 酪農家による出前授業の実施
- ⑥ 出前授業の終了後
*学校での事後学習で児童の感想や質問について、学校から酪農家に届けられることがあります。それらは次回の出前授業の大切な教材となります。記入で書くことができれば、さらに活かせるように工夫しましょう。

2. 成功の秘訣

- ① シナリオを組み立てる
授業シナリオ作成のための指導案（P6～7）と授業シナリオ（P8～21）を参考に、「導入」「展開」「まとめ」に分けて、授業のシナリオを組み立てましょう。
- ② 教材を準備する
乳牛を用いない授業であるため、「乳牛の等身大図」や「乳牛（胃・子牛）」、「紙芝居」などの支援教材や、乳牛の飼育場、牧場で使う道具など、児童が五感を使って学べるような教材を準備しましょう。
- ③ 児童が授業に参加しやすいように工夫する
授業の始めから終わりまでをひとりですべて話そうとするのではなく、問いを準備して児童に考えさせるなど、幅広いコミュニケーションが取れるようにしましょう。問いもクイズ形式にすると、児童が答えやすくなります。

授業の進め方、シナリオ

授業シナリオ①

加茂牧場 加茂太郎氏

導入

加茂 こんにちは。加茂です。酪農家のおじさんです。酪農って、何をやる人か知ってる？

児童 乳搾り

加茂 乳搾りだよ。みんな牛乳好き？ 牛乳が好きなおじさんに、気を遣わなくても大丈夫だよ。

児童 (拍手)

加茂 実は動物おじさん？

児童 (拍手)

加茂 いるよ。牛乳を飲むのは動物と想っていても、牛乳はいろんな形に変化すること、知ってる？ 例えば、何がある？

児童 アイスクリーム、チーズ、バター、ヨーグルト

加茂 それ以外にもケーキの生クリームとかは牛乳でできていて、みんなの生活の中に、結構、牛乳は入っている。そんな牛乳と牛の話、今日はしたいと思います。

展開

加茂 おじさんの家は千葉県八千代市、みんなの学校から（地図で見ると）30センチくらい、今日は電車に乗りました。ディズニーランドから30分くらいだから、割と近いですよ。どこがおじさんの牧場でしょう？



児童 おおがある。産まれてくる牛は雌と雄は限らない、牛の赤ちゃんも半分は雄、雌はどうする？

児童 お肉になる。

加茂 それとお母さん牛も、ずっと赤ちゃんを産み続けられない、産めなくなったらどうする？

児童 動物園？

加茂 殺後は市場に連れて行って牛肉になる。子ども市場に行って、殺後は肉になる。かわいそうないない？

児童 肉嫌い。

加茂 肉嫌いだから食べない、かわいそうだから食べない、それと牛はかわいそう、でも肉はいい？ 鶏はいい？

児童 鶏は不潔。

加茂 鶏はすごい清潔な動物だからね。覚えておいてね。鶏はかわいそう、じゃあ魚ならいい？ そんなことないよね。どんな動物もみんな生きていて、体が大きい、小さいの差だけ。そこで考えてほしい。ご飯食べるとききかえて言いますか？

児童 いただきます。

加茂 誰に言ってるの？「いただきます」の意味の一つが、こういう生き物のいのちをいただくこと、今日もこれからご飯食べるでしょう。植物も生き物、私たちが食べているご飯、いのちがないものは何も無い。今日、おじさんのとき、いのちがいっしょに数えてもらって。牛は、年に何回も市場に連れて行く。牛と別れるときは、「さよなら」とは言いません。「ありがとう」、それからみんなのいのちをつぐ次の仕事に向かうという意味で、(お肉になると言うことだけど)「頑張ってね」といって送り出す。これからご飯を食べるとき、毎日たくさんいのちがみんなの体につながっていることを思い出して、ご飯を食べてほしいと思います。











「いただきます」シリーズの後編では、親子で2日間牧場体験をし、「いただきますって何だろう？」を考える機会にしました。「いただきます」と食事の前に唱える言葉は同じでも、目の前に置かれた食べ物をモノと捉えるか、いのちと捉えるかで、その意味は大きく変わってきます。ただ、このことは言葉で教えるものでも覚えることでもなく、体験を通して自ら気づき、発見し、自分の言葉として獲得し、食事を共にする家族の中で共有化されていくものであってほしいと考えます。

そこで今回5組の親子に、牛乳を毎日出してくれる乳牛や、それらを世話する酪農家の思いや暮らしそのまますを体験してもらい、体験前と後で「食べ物に対する感謝の気持ち」や「いただきますの理解」などについて、意識の変化を調査しました。そして調査結果を学習院女子大学国際文化交流学部教授の品川明氏と、アートセラピストの宮崎奈穂子氏、三好真季氏に分析してもらいました。なお、調査はアンケートと心の色塗り（子どものみ）を行い、参加者の感想などをもとに質的な分析を中心に行いました。

牛乳のふるさとで、乳牛と酪農家に出会う

「いただきます」って、何だろう？

後編

夏休み 親子で牧場体験!





食育活動の推進に向け
生産者委員の増員を切望いたします
ご清聴ありがとうございました